

# 福井大学研究シーズデータ

名前・学部・学科等	桜井康宏・工学部・建築建設工学科				
研究情報の分類	<input type="checkbox"/> シーズ <input type="checkbox"/> 特許 <input type="checkbox"/> 新製品 <input type="checkbox"/> 分析/解析 <input checked="" type="checkbox"/> 調査				
研究分野の分類	12	以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1. 物理系 2. エネルギー系 3. 化学系 4. バイオ系 5. 環境系 6. 海洋・宇宙系 7. 交通系 8. 機械系 9. 材料系 10. 電子・電気系 11. 情報系 12. 建築・建設系 13. 医学系 14. 健康・保険系 15. 看護・福祉系 16. 農業・林業系 17. 水産・畜産系 18. その他			
重点研究分野への該当	<input type="checkbox"/> IT <input type="checkbox"/> ナノ <input type="checkbox"/> バイオ <input type="checkbox"/> 環境・エネルギー <input checked="" type="checkbox"/> その他				
キーワード(5個以内)	住宅	集合住宅	福祉施設	教育施設	まちづくり
研究情報の名称	生活との対応関係からみた住宅・施設・まちづくりに関する情報				
概要	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>建築都市空間は人間の創造物であると同時に人間の生活や意識を規定する存在であり、相互に働きかけ合いながら共に発達・発展していく関係が成り立っている。</p> <p>そこで「生活と空間との対応関係」を科学的に解明することを通して建築のあるべき姿を構想・提示することが研究の目標となり、主要な科学的視点としては生活や空間が持つ「階層性」「地域性」「歴史性」といった特性を明らかにすることである。</p> <p>主な研究対象は住宅・集合住宅・福祉施設・教育施設とそれらを統合する「まちづくり」全般である。研究対象としては、福井県をはじめ北陸地域を中心としながらも、国内の先進的事例の調査研究に加えて北欧および東アジア諸国との比較研究を行っている。</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>生活と空間の対応関係の解明</p> </div> <div style="width: 25%; text-align: right;"> <p>空間の構想</p> </div> </div>				
グラフィカルな社会還元までのチャート	<p>生活空間の対応関係の解明→新しい空間ニーズの発見</p> <p>実践と研究との連関構造 (サステイナブルな循環構造)</p> <p>建築は基本的に社会的存在であり、極めて多くの人間がその生産と消費(使用)に関わっている。また、建築の生産は「土地に固着した一品受注生産」であり、個々の建築が「特殊解」という性格を持っている。</p> <p>従って、「研究→社会還元→実践」という一方通行ではなく、生産者(設計者・施工者)と消費者(使用者・地域の住民)との連携の下で「共に考え、共に創りあげる」という循環的な生産システムと共同研究体制の構築が必要である。</p>				
関連している企業・大学・団体等	福井県および富山県内の自治体および社会福祉法人				
関連する特許1件	(設計作品) 鷹巣ひかり保育園				
関連する論文1編	「グループホーム型特別養護老人ホームの仮説と検証」松村正希、桜井康宏、日本建築学会技術報告集第19号、249-254 (2004.6)				